

平成 21 年度 (第 32 回) 校内放送指導者講習会 報告

神奈川県立横浜修悠館高等学校

吉田 健一

日時：平成 21 年 12 月 27 日 (日)、28 日 (月)

会場：千代田放送会館

URL：http://www.nhkk.or.jp/ncon/ncon_h/index.html

全国放送教育研究会連盟・日本放送協会主催、日本放送教育協会共催による「第 31 回校内放送指導者講座」が開かれ参加してきました。

講座 1 「顧問交流」(前半 90 分 後半 30 分)

参加の先生方が 11～12 人の 10 班に分かれて、日頃の活動報告や指導法の悩みやヒントを話し合いました。顧問暦により初任の方からベテランまでうまく構成されていて、様々な貴重な情報交換が出来ました。

講座 2 「実践発表」 兵庫県立小野高等学校 大江 真理 先生

ご自身が放送部大好きで、ご自身の学生時代の体験を交えて話されました。

- ・母校に戻られまでの各校での顧問としての経験
- ・部員獲得のため、HRの前にPR
- ・部室の改造
- ・機器の整備
- ・人数を増やし
 - ①部活を目立たせる
 - ②地域のイベント→校外での活躍のチャンスを増やす
 - ③番組制作、ドキュメンタリーをたくさん作らせて部員同士を競わせる
- ・中学生向け話し方講座
- ・定期作品発表会(保護者向け、OB・OG 世代無差別アナ朗コンテスト)
- ・合宿で学年ごとで番組制作で競わせる・・・番組はたくさん作らせる
- ・ドキュメンタリー番組制作で有名人に出会える

など生徒に活躍の場と技術向上のチャンスを与え続けることで例年の全国大会での好成績に結びついているのがわかりました。

講座3「アナウンス・朗読指導講習」 NHKアナウンス室次長 渡部 秀美 先生

「アナウンス・朗読の指導法」について話されました。

ご自身の体験から、プロフェッショナルー高校生から目標を持って進んで来て欲しい。

- ・誰に向かって伝えるのか・・・1：多のつもりが1：1（One to One）になっていないか？

皆さんに向かって→相手を想定する（誰に伝えた？）

観客を意識する（常に身近にいる感じ）が大事

異空感性（違う場所）→同室感性（隣にいる感じ）

- ・聞き手は誰か
- ・自分のための放送になっていないか
- ・情報→何が伝えることとか、面白いことの大切さー「世のため、人のためになること」
- ・校内から社会を見よう
- ・独自ネタ・スクープを取ろう
- ・裏付けを取ろう！ 本当にそれが正しいか
- ・他人事のコメントにならない。発見のインタビュー→選択肢を多くする
- ・小さな出来事はすべて社会の縮図
- ・読みやすい原稿を作る←書き原稿は「読みにくい」
- ・五七のリズムは歌いやすい

朗読について

- ・シーン・・・誰が見て語っているのか（スタンスの立ち方）
- ・文章の続きを意識する
- ・地の文→語り手は軸となるところから動かない（登場人物と背景を映し出す）
- ・演じるー人物（役者がセリフになりきる＝仮の姿）

像を作っても演じない→聞く人のため

- ・場を引き込むかー聞き手のために語りかけたかどうか

発声・滑舌

ダソザソ ドザソダ

ドロダラケのラクダのカラダ

ぴかぴかひかるふく

などを繰り返す

など参考になる話がきけました。

講座4 「高校生とドラマ」 脚本家・作家 竹内 日出男

今年の決勝大会で審査をしてくださった脚本家・作家の竹内先生に「高校生とドラマ」というテーマでお話を伺いました。決勝大会に審査された作品についても話していただき、

作品作りの様々な工夫の仕方について話されました。

「先生の役割は、皆をやる気にさせる『プロデューサー』。生徒たちのアイデアをどんどん取り入れて交通整理をして、チームの力を 100%出させてください。『作るのは君達』先生は子供の個性や生き生きとした発想を殺さないで鼓舞してあげてほしい。」

徹底的にディスカッションをする。(今の子たちは話し合いは出来ない。思っていることは沢山あるのだが、それを引き出させるには。)

- ・マイクの距離・・・音の距離
- ・マイクの使い方
- ・息づかい、間の取り方
- ・SEの使い方
- ・何テイクもとる（撮る場所を変えて）
- ・耳を敏感に

など昨年以上に参考になるお話が聞けました。

講座5「アナウンス・朗読 模擬審査講習」

NHK日本語センター 榊 寿之

準決勝のアナウンス・朗読の録音したものを聞いて模擬審査講習を行いました。

それぞれの発表の特徴と祭典のポイントなど

アナウンスであれば伝えるな内容・キーワード・原稿と声の出し方

朗読であれば 選択箇所・選択文章の量・発声・イントネーション・プロミネンスについて

古典をいかに読むか

ふしをつけない

和歌読みでは音だけになり意味が伝わりにくい

文意を大切に

会話文・・・誰のセリフか、人物像がわかるように

読みかた全般

単語トレーニング（うねりをとる）、耳を鍛える

など実際に読みの練習をしながら講習の内容が自分の身で理解できる内容でした。

講座6「ラジオ・ドキュメント模擬審査講習」

NHK製作局第一製作センター学校教育番組部 チーフプロデューサー 市谷 壮 先生

準決勝に進出した作品を実際に聞き審査実習を行いました。実際に聞いた作品（5作品）について講習1での班ごとに話し合っ
て順位をつけて審査して全体でフィードバックして比較してみました。

講師からそれぞれの作品の特徴について解説され審査方法について理解を深めることと

ができました。

講座7「ラジオ・ドキュメント制作講座」

NHK製作局第一製作センター学校教育番組部 チーフプロデューサー 市谷 壮 先生

- ・番組作りの基本は取材一つまらない番組、わかりにくい番組はたいてい取材が足りない。
- ・その人にまわりついて「空気を感じる」→情報の説得力
- ・雑談の中から当初の目的とは別の「おいしいネタ」が拾える
- ・取材の仕方について
- ・事前調査について
- ・質問を整理しておく（5W1H）Yes／Noは最小限に
- ・メモ・取材ノートは丁寧に作る
- ・顧問の役割（生徒と取材者との橋渡し・・・相手に失礼のないように社会性を指導などなど「生徒が社会人として成長させるいい機会を与えることになる」という放送部ならではのことがとても参考になりました。

* NHKクリエイティブ・ライブラリー(<http://www.nhk.or.jp/creative/>)の使用について情報提供がありました。

* 全国大会の番組部門で使用される機器（DVD／CDプレイヤー）の紹介がありました。